

<速報>
【Update Short Report】

| Company |

株式会社 多摩川ホールディングス

| Code |

6838 : ジャスダック
JASDAQ

| Analyst |

C&A 首席シニアアナリスト
C&A Senior Analyst

叶 一真
Kazuma Kanou

| Date of Issue |

3/31/2020

Ver : 20200331-1

<速報>

【Update Short Report】

大幅な上方修正を発表
2020年3月期は大幅な増収増益を見込む
(通期予想：売上高：63億円、営業利益：7.2億円)
(営業利益は前年比4.7倍)

目標株価を4,500円に上方修正
レーティングをStrong Buyで継続

【目標株価】

3/31/2020:4,500円(上方修正)
(11/15/2019:3,500円)
(12/20/2018:2,750円)
(7/2/2018:2,500円)

【レーティング】

Strong Buy(継続)(3/31/2020現在)

【業績予想】

2020/3期(会社予想)
売上高：6,301百万円、営業利益：724百万円、
経常利益：607百万円、当期純利益：377百万円
(3/31/2020現在)

【テーマ】

EDGs・ESG、ディフェンシブ、国家戦略(国策)、再生可能エネルギー、太陽光発電所、風力発電所、JCM、グロース、5G、IoT、アナログ高周波無線、グローバルニッチ、残存企業
(3/31/2020現在)

【2020年3月期決算（予想）】 大幅な上方修正を発表（3/31/2020）

同社は、2020年3月31日に、2020年3月期通期決算の大幅な上方修正を発表した。これにより、2020年3月期は、大幅な増収増益が確実視されることとなった。

売上高は、6,301百万円（増減額601百万円増、増減率10.6%増、前回予想5,699百万円）、営業利益724百万円（増減額200百万円増、増減率38.2%増、前回予想524百万円）、経常利益607百万円（増減額235百万円増、増減率63.2%増、前回予想372百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益は377百万円（増減額57百万円増、増減率18.2%増、前回予想319百万円）である。（増減額・増減率いずれも対前回予想比）

2019年3月期（前期）実績と比すると、2020年3月期（今期）は大幅な増収増益を見込んでおり、同社の急成長には目を見張るものがあることがわかる。

売上高は2,460百万円の増加、増加率64.0%（前年実績3,841百万円）、営業利益は571百万円増加し、増加率は373.2%（前年実績153百万円）、経常利益は686百万円の増加（前年実績△79百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益は249百万円の増加、増加率194.5%（前年実績128百万円）である。

ここで注目すべき点は、営業利益が約4.8倍、金額にして571百万円増加、営業利益率は4.0%から11.5%と7.5ポイントも増加、経常利益においても686百万円の増加、経常利益率は9.6%と高水準を見込んでいることである。（増加額・増加率いずれも対前年実績比）

（参考：2019年3月期（前期） 売上高：3,841百万円、営業利益：153百万円、経常損失：△79百万円、親会社株主に帰属する当期純利益：128百万円）

今回の上方修正の要因は次の3点である。

要因：その1）高圧の太陽光発電所の販売が完了

同社は、再エネシステム販売事業において、前期より販売予定にしており、天候不良などを理由に建設が遅れていた高圧の太陽光発電所の販売が完了し、4Qの収益に貢献している。発電所の販売金額については公表されていない。

要因：その2）館山市茂名太陽光発電所（約1,999Kw、FIT:40円）を売却

同社は、再エネ発電所事業において、2020年3月19日付で子会社が保有する館山市茂名太陽光発電所を売却したと発表している。同発電所は、子会社の株式会社GPエナジーが販売用資産として保有していたもので、発電出力は1,999Kw、買取価格（FIT）40円/kwhの優良案件である。同社は売却額等については公表していないが、昨今のセカンダリー市場においては、RE100(Renewable Energy100)を掲げる企業や上場インフラ市場に上場する投資法人等から稼働済みの再生可能エネルギー発電所の購入希望が増加しており、中古太

陽光発電所売買市場の活況度合いを鑑みると、かなりの好条件で売却できたものと思われる。この売却による収益が今回の業績予想に反映されており、大幅な上方修正の主たる要因となっていると思われる。

要因：その3) 5G用コンポーネントを扱う電子・通信用機器事業の順調な推移

アナログ高周波無線技術に基づく製品や5G用コンポーネント、ミリ波モジュール等を手がける100%子会社の多摩川電子（電子・通信用機器事業）は、受注・生産・出荷が順調に推移している模様である。官公庁及び公共関連分野の売上が多く、例年は下期偏重型の収益だったが、今期から民間需要の取り込み等により、上期の収益を増加させ、極端な下期偏重型からの脱却に取り組んできた。この戦略は功奏し、例年、2Q（累計）は赤字基調であったが、今期2Q（累計）におけるセグメント利益は84百万円の黒字化を達成。3Q（累計）においてもセグメント利益は221百万円まで伸長し、受注においても前年同期比28.9%増と大幅に増加させており、4Qにおいても順調に推移しているものと思われ、今後も大いに期待される事業である。

レーティング基準について

以下の定義に基づいてレーティングを付与しています。

Strong Buy

今後1年以内に株価がTOPIXを30%以上アウトパフォームすると予想する

Buy

今後1年以内に株価がTOPIXを10%以上アウトパフォームすると予想する

Neutral

今後1年以内に株価がTOPIXを中心に±10%未満の変動と予想する

Sell

今後1年以内に株価がTOPIXを10%以上アンダーパフォームすると予想する

留意事項

本資料は、情報提供のみを目的として各種のデータに基づき作成したもので、投資勧誘を目的としたものではありません。また、この資料に記載された情報の正確性および完全性を保証するものでもありません。この資料に記載された意見や予測は、資料作成時点の見通しであり、予告なしに変更することがあります。株価の変動や、発行会社の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがありますので、投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなされるようお願いいたします。なお、C&A Investment Research. 及び、同関連会社の社員、役職員又はその家族はこの資料に掲載されている企業の証券を保有する可能性、取引する可能性があります。この資料の著作権はC&A Investment Research. に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。